

全部でいくらですか？

How much is it all together? [英語]

Magkano lahat? [タガログ語]

ທັມມາ ວາກາ ທາໂລ [タイ語]

चौ सप्टीमी काँरी हा ? [ネパール語]

PHD運動とは

PHD運動とは昭和37年(1962)より約20年間、ネパール、東南アジアを中心とした発展途上国で医療活動に従事された岩村昇博士の提唱による国際ボランティア運動です。これまで自分のためにだけ使っていた時間、技能、財などの10パーセントをささげて、平和づくり(Peace)健康づくり(Health)を担う人材をつくる(Human Development)運動を世界中にひろめることを目的として、昭和56年(1981)からはじめられました。

拾ったものを活かして人をつくりましよう!

岩村昇

先日、PHDボランティアとして御自分の生活の現場でPHD運動を仕掛けて居られる人生の先輩から有らぬ御提案をいただきました。

「私と貴方が、何気なく捨てているジュースやビールの空き缶、また木片捨て空き缶を回収して、廃品回収業の方に引き取ってもらい、そのお金を、アジア南太平洋からPHD研修生をむかえる為、持ち寄りましよう!!」

1 空き缶を回収する

2 空き缶をつがす

3 空き缶を買って下さる業者へ引き取っていただく

但し、アルミ缶だけ!! プラスチックやステンレスはダメ!! アルミ缶約50個が1kg(約100円)なり、100円を引いて取り戻す。すると、人生の後輩 例えは小学生1000人が1人100円ずつ持ち寄ったとしても、何と1,000円にもなります。「木片捨て空き缶の問題が、若し貴方さまの身のまわりに残っているなら、此で一挙両得になります。PHDボランティア地域活動の一ツとして取り上げましよう!!」と提案者はあつておられます。

私も早速、木片捨て空き缶拾いを始めてみたら、あつという間に50kg=100円集ってしまいました。約の両手両足を駆使して拾い集めたので、良い運動になりました。100円をPHD感謝函に、「今日も、なほよく頑張った。いよいよとすこせました、ありがとうございませう」と念じて入れると、ハツとひらめきました。一挙三得です!!

さて、ひらめいた内容は、「木片捨て空き缶を拾って私と貴方の地域をきれいにし、1人1日50円=100円で「楽しい運動と、100円もつがれば」となるPHD基金をつくりましよう!! 私と貴方がつがったPHD基金で、私と貴方の地域におかえましよう!!」

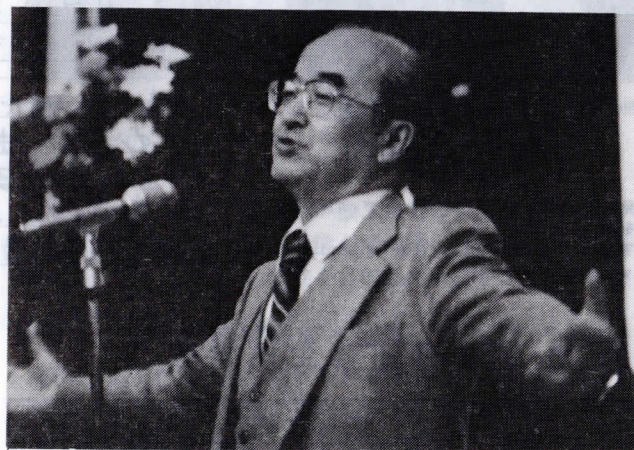
貴方さまにも、きっとすばらしいアイデアが「あかり」にちかひありません、「こうなるとPHDボランティア地域活動は、いかに!!」という御提案をお寄せ下さいませ!!

番号があげられた編物器、織物材、ミンホも寄せ下されまじとありがとうございました。顕微鏡が来たので、よくよくおねいじり。

# PHD LETTER

No.10 発行1984年3月15日

編集発行 財団法人 PHD協会  
〒650 神戸市中央区元町通5-2-3  
甲南サンシティ元町ビル7F  
電話 神戸078-351-4892  
郵便振替 神戸9-23625 PHD基金事務局  
定価100円 印刷所 マルニ出版印刷



講演中の岩村先生  
Dr. IWAMURA is talking about "Living is sharing"  
Tottori, 1983

## PHD 会員制のご案内

入会：PHD運動に賛同し、入会申込書と会費をPHD協会あてに提出されると、信仰、思想、信条に関係なくどなたでも会員になっていただけます。

会員：(1) PHDについての講演会、セミナー、研修会等へ出席して意見を述べ、活動に参加願います。  
(2) PHD協会機関誌「PHD」(年1回発行)及び「PHD-LETTER」(年4回発行)などの刊行物をお読みいただけます。

会費：(1) PHD終身維持会員 一口 100,000円  
(2) PHD会員 年額一口 5,000円  
(3) PHD友の会会員 任意の額 (年額500円以上)

◎ かわいい資料はPHD協会までご請求ください。

## 第2期研修生 現況報告

### I. 研修成果著しい女性たち 帰国間近いラダさん、サヒーさん



見事なできばえの作品(コートとカーディガン)を披露する二人  
Two trainees showing the splendid works of their own

ラダさん姫路市内、サヒーさんは多紀郡篠山町を中心に、主な研修課題の編物・洋裁などを学んだほか、広島へ平和学習、健康学習(豆腐作り)にも行き、巾広い成果をあげました。

残る期間は、3月に兵庫県三木市で味噌作りの勉強、4月に東京の編機工場見学、そして神戸市内で研修のまとめ等に費し、いよいよ帰国の運びとなります。お世話して下さいご家庭をはじめ、全国の皆様の暖かいご協力とご支援を心より感謝いたします。

#### 日本語で感想をひとつ

みなさまのおかげで、今、わたくしの心はとても明るくなりました。かんしゃでいっぱいぞう。日本でべんぎょうしたことをネパールの人たちにたえ、PHDきょうかいとマザーズクラブの友情をそだてるためにゆきたいと思ひます。(ス・ジ・ナ・サ)

わたしは月おき2か月前、べんぎょうしたころのなごころをわたくしらのまほうの人たちにあしえま。口ではなすのはやさしい、あしえるのはむずかしいがどりよくします。わたしはP.H.D.「必もまほうの人にあげましよう」のころを、ネパールでもひらけたいです。ありがとう ございませう。(ラダ バンスロー)

#### 《 第2期研修生予定表 》

	サンバさん	ウイリーさん	ビシュヌさん
1984 3月	指庄・リハビリテーション・訪問看護(アジア保健研修所)	稲作(沖縄県石垣市・徳村様宅)	養鶏・野菜(兵庫県多紀郡・原様宅その他)
4月	指庄(兵庫県立盲学校)	↓	↓
5月	↓	養豚(沖縄県中頭郡・喜友名様宅)	↓
6月	↓	↓	↓

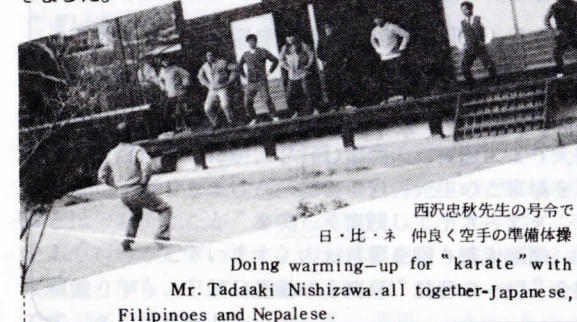
#### 指庄に取り組みサンバさん

昨年11月より、愛知県のアジア保健研修所を拠点に、愛知国際病院で血液検査を中心とした実習、国立東名古屋病院では結核に関する検査の実習を行ないました。「病院のスタッフの皆様から親切に教えて頂き大変うれしいです。しかし日本とネパールの病院を比べると、器具及び薬品の点でも格段の差があり日本での研修をそのまゝ応用することはとても難しい」と感想をのべています。今年1月から、指庄の勉強に入り、現在は愛知県立盲学校の先生のご指導を仰いでおり、4月からは兵庫県立盲学校で研修の予定です。

## II. 禅寺にて集団研修(2班) 日本文化に触れる 座禅・茶道・空手 = 祥龍寺 =

### ◎ 日本の農業の将来を心配するビシュヌさん???

2月10日から16日まで、神戸市灘区にある禅寺、祥龍寺において、集団生活研修を行ないました。半袖姿で来日したウイリーさんはもとより、ビシュヌさんも日本の冬の寒さは大分こたえたようでしたが、戸を開放して、雪景色の庭を前にして行なった朝晩の座禅も、頑張り通し、貴重な経験となったようです。日本についての勉強の時、ビシュヌさんは、わが国の農業人口が全人口の6%であることを知り、大変驚いたようで、日本の将来を心配していたことが印象的でした。岩村先生・海外青年協力隊OB、一般参加者との座談会も行ない、お互いに親睦を深めることができました。



西沢忠秋先生の号令で日・比・ネ 仲良く空手の準備体操  
Doing warming-up for "karate" with Mr. Tadaaki Nishizawa. all together-Japanese, Filipinos and Nepalese.



かしてまってお煎茶のお手前に挑戦するウイリー君  
Mr. willy sitting straight, challenging the tea ceremony



日本赤十字神戸青年奉仕団の訪問を受け、なごやかな交流風景  
Friendly exchange with Japan Red Cross Kobe Volunteer Youth Corp

※なお、レネ・ブリッツ君は、体調をくずし入院加療中です。3月末の退院予定ですが、研修実施については、現在のところ未定です。

#### ★ホームステイをお願いします。

研修生の長期、短期ホームステイを引き受けて下さるご家庭について、直接、間接の情報を求めています。詳しい内容につきましては、PHD協会までお問い合わせ下さい。

昨年12月ネパールへ、今年2月フィリピンへ出向き、現地の協力諸団体、及び4人の第1期研修生と具体的なフォローアップ計画の作成に取り組んできました。その結果、内容、実施計画もまとまり、今年4月よりスタートすることになりました。なお、プログラムに対して当協会は、アドバイザーを年に3ヶ月現地に派遣して指導する、或いは計画に必要な資材・資金の提供という形で4年間支援し、日本での研修成果が、彼らの活動を通じて、草の根の人々の生活向上に、確実につながってゆく様に協力してゆきます。

**ネパール** 結核予防協会、家族計画協会、及びマザーズクラブの三団体が、PHDフォローアップ・プログラム委員会を作り、PHD運動の展開と共に、各々の研修生の行うプログラムが効果的に実施される様、協力し援助し合う体制ができました。アマティアさん、ビスタさんは各リーダーとしてプログラムに取り組み、各団体内に作られた支援グループがこれに協力し、更に上述の委員会がバックアップするという形で実施されます。

▷養鶏を通じ地域への貢献を目ざす（アマティアさん）

アマティアさんは、PHD協会が寄贈したふ卵器を使って、養鶏のプログラムに取り組みます。当面は、彼自身が結核予防協会のフィールドワーカーとして働く1～2の村を選び、そこでまず、結核の為に働けない人々、また極端に貧しい人々などに、ふ化したヒナ鶏を無料で提供し、養鶏の知識、技術を指導して、彼等の経済生活の安定化をはかろうとしています。

そして計画の進展に伴い、対象地域を拡大し、支払い能力のある村人には、安価でヒナ鶏を分け、その収益をプログラムの費用に当てます。将来、これを事業として成立させ、収益の10パーセントを地域開発に捧げるというのが目標です。また、養鶏と同時に、野菜栽培・キノコ栽培を平行的に指導し、草の根の人々の栄養状態の改善、及び収益の増加に努めるよう準備を進めています。

▷草の根ボランティアの育成を目標とする（ビスタさん）

ビスタさんは、自らが家族計画協会のフィールドワーカーとして働くバウダ・パフニパティの地域において、日本で学んだ養鶏、果樹、野菜栽培、林業等の知識、技術を生かし、地域開発を担う人材の育成を最大の目標としています。まず、フ化したヒナ鶏を村の有志に配り、彼等と共に村の人々に養鶏の技術指導をします。その他、種々な分野でボランティアを育成し、彼等を通じて日本で学んだ成果を地域の隅々にまで、拡大させる予定です。



日本より持ち帰った有田みかんの苗の生育を見守るビスタさんとボランティア仲間  
Bista and his fellows watching a seedling of "Arita Mikan" brought from Japan.

**フィリピン** 研修生が独立自営の経営者である為、まず日本で学んだ知識、技術を使って収益事業の確立を目指しています。

▷日本で学んだ養殖技術を生かして（パニサレスさん）

彼は日本で得た淡水魚養殖の実績を基に、地域の漁業にたずさわる人々にテラピア養殖の技術指導をしています。将来はラグナ郡の水産試験場の淡水エビ養殖事業に参加し、種苗（稚えび）生産に取組む予定ですが、PHD協会はこの段階でエサの供給、或いは専門家を現地に派遣する形で協力してゆきます。

▷アヒル養殖事業化実現へ向って（ロサーナさん）

彼はアヒル養殖を収益事業として取り組んでおり、この基盤作りが目下の急務です。その他、日本で学んだ豆腐生産及び稲作、野菜栽培の技術の普及にも意欲を燃やしています。PHD協会としてはアヒル養殖が事業として成立つ様に資金援助をして、彼が一日も早くその利益の10パーセントを使って地域社会に貢献できるように協力してゆきます。

第3回 PHD 現地研修旅行（ネパール）



'83.12月9日～12月20日  
I 期生の出迎え受ける

ネパールの農山村での生活体験を目的とした第3回現地研修旅行は、17名の参加者を得て行われました。そのうち女性が8名おられ、全体の参加年齢層も19才から60才と幅広く、アジアに関心を持つ人が一部の限られた層から確実に拡がりを持ってきたように思われます。カトマンズ空港では、既に帰国した第1期研修生、アマティアさん、ビスタさんに出迎えられ、前回訪問にはなかったあたたかさを感じ、人的交流が根つきつつある印象を受けました。

- 現地では、結核予防協会と家族計画協会の御協力の下以下の3コースが設定され、各人多くの貴重な体験を土産に帰国しました。
- Aコース：カトマンズ及び近郊農村での生活体験と社会活動、教育現場見学
  - Bコース：パフニパティからマハンカラにかけての山村における生活体験と地域開発の現場見学（ビスタさんの活動地域）
  - Cコース：ポカラからタンセン地域における生活体験と結核予防協会の活動状況の見学

ホカラの夕食  
西山喬

7時間余のバスの旅は苦にならなかった。屋根上の展望席より眺める白い峰々の移り変わり、菜の花畑を流れる心地良い風に心洗われながら、ポカラの街に着いた。夕暮に追われるように、ペワ・タール湖畔に散歩して、湖面に映る紅のマチャプチャリの尖峰に胸躍らせ、闇に包み込まれる迄、眺め尽した。その後、「チベット料理」と看板の揚った小さな店に入った。私達の夕食は、ロキシ（ネパール風蒸留酒）とモモ（ネパール風シューマイ）と各種のカリーの料理で楽しく始まるのが常である。宴半ば、食卓の片付けをかねて空き皿をまとめて、其処のおかみさんに手渡したところ「本当に申しわけない」という風情を全身に溢れさせた彼女は、肩をすぼめ両手を揃えてその皿を受け取るのだった。そのさりげない仕種の中に、ふと幼い頃の記憶にある祖母の姿を重ね、一人、懐しいものとの出会いに心浸らせていた。其の店の野菜カレーは、殊の外美味かった。（'83.12.12）にしま・たかし 画家 〒614 八幡市橋本北ノ町70



カット 西山氏

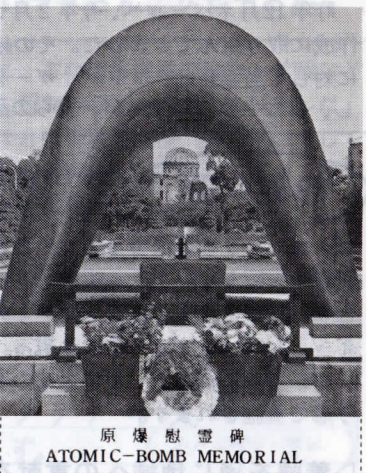
「広島 7 ロータークラブ」

PHD研修生の受入れに当って広島訪問は欠くことの出来ないスケジュールであると岩村博士からお聞きした。原爆の悲劇を勉強することによって、「平和」がどんなに貴重で且つ必要なことをか肌で感得してもらおうという博士の強い願いなのであろう。

あの8月6日、倒壊した千田町の校舎の下から一命を救い出されたことが、博士をして工学部から医学部に転じさせ、公衆衛生を専攻したことがネパールの結核撲滅の海外医療協力を結びつき、ひいてはネパールの彼の青年との出会いにと運命の糸が繋がる。博士にとってPHDの原点が広島にあるのではないかと私は思う。広島市の7つのロータリークラブでは正岡旭バスタバガナーを中心に早くから切手蒐集を通じて岩村博士らを支援してきたが、PHD運動が始まるや、第1期、第2期と研修生を受入れ、さゝやか乍らお手伝いをさせていただいている。各クラブの国際奉仕

委員会中心に、ロータリー家庭へのホームステイ、原爆資料館見学、青年グループとの交流、7クラブ全員の募金etc. PHDにおける広島の役割りを今感じている。

連絡先  
〒731-51  
広島県佐伯郡五日市町  
観音台10-488  
川妻二郎



原爆慰霊碑  
ATOMIC-BOMB MEMORIAL

協会ニュース

§ 理事会報告 さる2月17日、県立のじきく会館で開かれ、1.役員人事 2.昭和58年度補正予算案 3.昭和59年度事業計画案 4.昭和59年度予算案の4議案について審議がなされました。菱川文博前兵庫県企画部長の辞任に伴い、新理事に四海好吉企画部長が就任されました。

§ 年刊PHDを編集集中です。小林祥晃（神戸新聞出版センター）白根洋三（神戸新聞社）野上文夫（兵庫県社会福祉協議会）松本光雄（兵庫県広報課）松元英介（神戸市市民局）（敬称略）内山三郎（PHD協会）の6人の委員ですすめております。

§ ソロプチミスト神戸のご協力によるPHDバザーで、西山喬画家のネパールの風物スケッチ、陶板、楽焼など即売されます。3月29日（木）11:00～15:00 ポートピア・ホテル地下催場

§ 日本図書館協定選定、全国学校図書館協議会選定「遠い空、近い国、そしてネパール」岩村昇序、内山三郎著が東京・民衆社より4月上旬発行の予定です。詳細はPHD協会にお問合わせください。

§ 豊永栄福さん 絵画を通じたPHD運動

PHD運動ご協力者豊永栄福氏より、80歳の誕生日の記念にと、氏が趣味で描いて来られた日本画22点を協会にご寄贈いただきました。活動の資金作りに少しでも役立てて頂ければという氏のご厚情により去る2月7日より12日まで、神戸三宮ジョイプラザの京美堂画廊での展示会を後援し、希望される方に氏の日本画をお買いあげ頂きました。5日間で400人を越える方々に来場いただき盛会の裡に無事終了し、その結果日本画売上げ、募金並びにご寄附の総額¥521,313一の貴重な浄財を頂戴いたしました。有難うございました。

傘寿とは思えぬお若い豊永氏にご感想を一筆お願いしました。「老後を楽しむ趣味として68才で始めた日本画の、ささやかな展示会を致しましたが、PHD協会のご後援により大盛會裡に終了することができました。初日に岩村先生のご来場を頂き「生きるとは分ち合うこと」を美しく実践して下さいとダンネバード（ありがとうございます）のお言葉を賜り感謝感激。心機一転また頑張り乍ら、PHD運動にも終身「貧者の一灯」を捧げる考えです。ダンネバード」

草の根交差点（その四）

〈家族〉  
ネパールの国民は、生活の智慧袋として、長老者を変尊敬しています。その現われの一つとして、長老者に対する言葉使いが、とても丁寧な事です。また、この言葉使いは、家族間において、



でも、使い分けが徹底していて、たとえ兄弟同志であっても、年少者は年長者に対して、必ず、敬語を使うそうです。（たとえば、日本語にあなた、君、お前といった使い分けがあるように。）

そして、日々の生活はというと、家族同志お互いに仕事を分担しあい、一人一人が生活の一部を担っているといった印象を受けます。父親は、朝、暗いうちから農作業。母親と年長の娘さんは、2時間程かけて水汲み、食事の仕度、農作業。男の子は、朝、牛や山羊など家畜を山へ連れて行き、夕方ふもとにつれもどす。女の子は、子守り、たきぎ拾い、ご飯炊き。（女の子は、5、6才になるとたいていの子のご飯炊きができるそうです。）

機械化や電化によって、スイッチ一つで日常生活がこと足れる私達の生活とちがひ、まさに、自然と一体になって、身体を張って生活している……おのずと人々の心には 自然に対する畏敬の念や、感謝の気持ちが生れるでしょうね。そして、それらが人々の素朴さや、共に生きることに結びついているのではないかと思います。（カット 西山氏）

§ 女性との交流を求めて

— 第3回PHDセミナー、姫路 —



ラダさんを交えての第3回PHDセミナー（姫路市天満公民館にて 1月31日）今後も各地でセミナーを持つ予定です。お近くの方はお気軽にご出席下さい。The third PHD seminar-with Ms. Radha at Tenma Kominkan, Himeji.